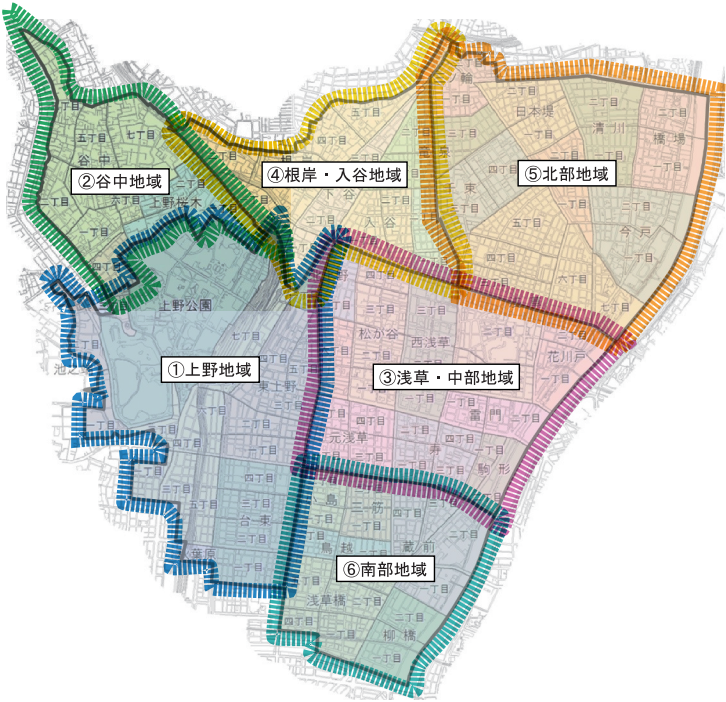


第5章

地域別まちづくり方針

- 1 上野地域
- 2 谷中地域
- 3 浅草・中部地域
- 4 根岸・入谷地域
- 5 北部地域
- 6 南部地域

■地域区分図



①上野地域	上野、東上野、北上野、台東、秋葉原、池之端、上野公園周辺
②谷中地域	谷中、上野桜木、池之端周辺
③浅草・中部地域	浅草、雷門、西浅草、花川戸、駒形、元浅草、寿、松が谷、北上野、東上野周辺
④根岸・入谷地域	根岸、入谷、竜泉、千束、下谷周辺
⑤北部地域	橋場、清川、日本堤、三ノ輪、東浅草、竜泉、浅草、千束、今戸周辺
⑥南部地域	浅草橋、蔵前、柳橋、鳥越、小島、三筋周辺

■各地域別まちづくり方針の構成

①地域の成り立ち

○地域で培われ、まちの形成に影響を与えてきた歴史的な背景

②まちづくりのトピック

○地域特性に応じたまちづくりを進めるにあたり、資源や課題など、現在における地域の主な話題や状況

③地域の将来像

○地域の歴史や特性を踏まえた、各地域におけるまちづくりの将来像

④まちづくり方針

○地域の将来像を実現するためのまちづくりの方針

⑤まちづくり方針図

○地域内におけるまちづくりの方向性を示す特色ある「エリア」や、歩行者中心の動線となる道路の特色を示す「みち」を記載したまちづくりの方針図

※具体的なまちづくりの取り組みや実現方策については、「第6章 まちづくりの実現に向けて」のとおり、まちづくりの多様な主体が協働で検討を進める。

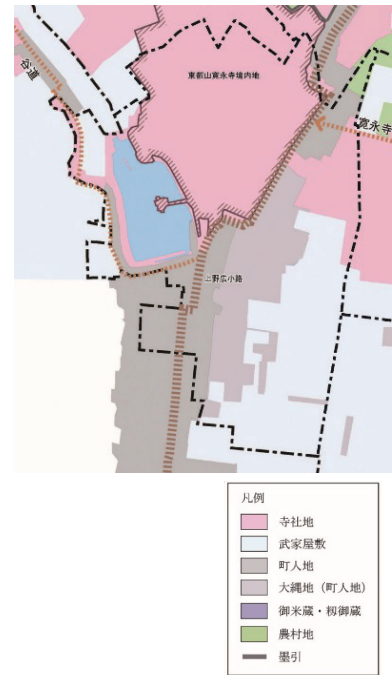
1 上野地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯

～江戸期	上野の山は寛永寺の境内にあり、桜の名所として親しまれ、参道は繁華街として発展した。現在の御徒町駅周辺～昭和通り東側一帯には、幕府御徒組の屋敷がおかれた。
明治期～戦前	上野の山一体は日本初の公園の一つとして整備された。また現在の東京藝術大学や東京国立博物館、国立科学博物館などが開設され、文化の杜形成につながっている。上野駅は明治16年（1883年）に開業、昭和2年（1927年）には東洋初の地下鉄が上野～浅草間に開業した。
戦後	アメ横が出現し、三味線堀周辺には庶民の娯楽施設が集積した。また、上野駅は東京とふるさとをつなぐ心の拠り所となった。
現在	平成28年（2016年）に、国立西洋美術館が世界文化遺産に登録された。

江戸期の町割による都市構造



■まちづくりのトピック

文化・芸術資源の集積と特徴的な商業文化

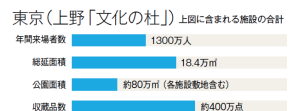
- 上野恩賜公園やその周辺には、日本を代表する博物館、美術館、動物園や大学など、多彩な文化・芸術資源が高度に集積している。
- 上野駅周辺から御徒町駅周辺の広範囲にわたり、活気のある商業エリアが形成されており、中でもアメ横は年間を通して来街者で賑わっている。



アメ横の特徴的な商業文化



出典：東京文化ビジョン、東京都（2015年）



上野駅周辺における拠点性の強化

○最近20年間、上野・浅草副都心の機能集積はわずかしか進んでおらず、都市基盤と機能の集積のポテンシャルを活かした活性化が必要である。

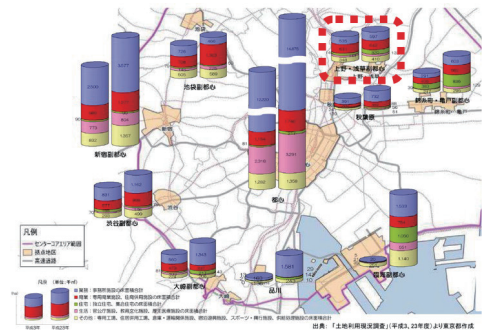
上野恩賜公園周辺の景観

○上野恩賜公園には、広い範囲でまとまったみどりの空間が形成されており、区民や来街者が都会の中で自然を感じられる憩いの場となっている。特に不忍池は、上野地域における貴重な水辺空間となっている。

○国立西洋美術館周辺は、世界文化遺産の風格を損なわないよう、環境保全に努める必要がある。

地域の安全性向上

○大規模な災害が発生した場合、上野駅周辺では、公共交通機関の運行停止等に伴い多くの帰宅困難者が発生すると予想されるため、災害時に備えた帰宅困難者対策が必要である。



東京副都心の機能集積の状況（再掲）
出典：東京都都市計画審議会第1回都市づくり調査特別委員会資料（2015年）



©国立西洋美術館

上野駅周辺の滞留者等の予想人数

駅前滞留者数	屋内滞留者	84,910
	屋外滞留者	22,217
	小計	107,127
待機人口		17,647
滞留場所不明人口		10,529
計		135,303

※屋内滞留者：駅周辺で学校、職場等に滞留している人の総数

※屋外滞留者：駅周辺で私用、目的不明で滞留している人の総数

※待機人口：滞留目的が自宅及びその周辺の人の総数

※上野駅を起点に4km圏内に存在する人数をカウントしている。上記のうち、「屋外滞留者」が駅周辺に集積すると予想される。

出典：上野駅周辺エリア防災計画、上野駅周辺滞留者対策推進協議会（2015年）

■上野地域の将来像

杜とまちが一体となり

日本と世界をつなぐ文化・芸術のまち

国際競争力を有する文化・芸術の創造・発信拠点が形成されるとともに、商業・業務・産業など、地域の個性を活かした魅力が向上し、新たな賑わいが生まれています。

拠点全体で歩行者の回遊性向上や周辺地域との連携が図られ、上野駅をはじめ、駅周辺における都市基盤が充実しています。

商店街の活性化や都心居住が図られるとともに、総合的な防災力の高いまちが形成されています。

1 上野地域

■上野地域まちづくり方針

(1) 国際競争力を有する文化・芸術の創造・発信拠点の形成

①上野駅周辺における文化・芸術の創造・発信拠点の形成

- 上野駅周辺や主要な幹線道路沿道を中心に高度利用を図るとともに、上野恩賜公園と連携した文化・芸術機能の集積や、宿泊・滞在機能、情報発信機能等の関連機能の集積を図り、国際競争力を有する文化・芸術の創造発信拠点を形成する。
- 上野恩賜公園周辺のみどりの保全を図るとともに、幹線道路の沿道緑化や建物更新に伴う緑化等によりみどりを創出し、上野恩賜公園と市街地の一体化を図る。
- 東上野4丁目エリアは、行政機関などの公共公益機能を再編するとともに、文化・観光機能を誘導する。

②上野の歴史・文化・みどりの資源を活かした潤いと風格のある景観の形成

- 上野の歴史資源や文化・芸術資源を活かした風格ある景観形成を推進する。特に国立西洋美術館周辺では環境保全と資源の活用により、世界文化遺産のあるまちにふさわしい景観形成を図る。
- 上野恩賜公園周辺の水とみどりの集積を活かし、文化の杜を感じる潤いある景観を形成する。

(2) 地域の個性を活かした魅力向上と新たな賑わいの創出

①商業の集積を活かした商業・業務機能の充実

- アメ横やジュエリータウン等の歴史や特徴ある広域型商店街の集積を活かし、上野らしい個性豊かな商業・業務機能の充実により、さらなるまちの魅力向上を図る。

②地域の個性を活かした新たな賑わいの創出

- ものづくり等の産業の集積を活かし、防災性の向上を図りながら既存ストックの有効活用等を図り、世界や日本中から人々が集まり、常に新しい賑わいが生まれる機能を誘導する。
- 情報発信や交流拠点等のまちの魅力の維持発展に必要な機能の誘導を図る。

③多様な主体による地域まちづくりの推進体制の強化

- 既存のコミュニティを活かしながら多様な主体が一体となって地域まちづくりを実現するための体制を充実する。

(3) 歩行者の回遊性向上と周辺地域との連携強化

①上野恩賜公園と市街地をつなぐ歩行者ネットワークの強化

- 上野駅周辺では、視認性の高い駅及び広場空間の創出や道路における歩車分離、地下通路・地下駐車場等の既存施設の有効活用等により、回遊性を向上させる歩行者空間を整備し、上野恩賜公園と市街地との歩行者ネットワークを強化する。

②上野を中心とした周辺地域との回遊性・連携の向上

- 浅草通り、中央通り、昭和通り等の幹線道路沿道では、緑化や修景などにより連続する良好な景観形成を推進するなど、まちの潤いと賑わいを感じる空間として整備し、周辺拠点との回遊性向上を図る。
- かっぱ橋本通りやその周辺では、上野と浅草を結ぶ賑わいの連続性を高める街並み景観の形成や空間づくりを推進する。
- 谷中地域、浅草・中部地域、根岸・入谷地域等との歩行者回遊性や地域連携の向上を図る。

③安全で快適な道路空間の創出

- 道路整備にあたってはユニバーサルデザインに基づいて整備するとともに、歩行者・自動車ともに安全で快適な空間を創出する。
- 都市計画道路の優先整備路線である春日通りの整備を推進し、快適な道路空間を創出する。

(4) 駅周辺における都市基盤の充実

①上野駅周辺における都市基盤の再編

- 建築当時の佇まいを残す現駅舎の活用や、風格ある駅前広場の整備を図るとともに、交通機能の集約・再編や乗り換え機能の改善などにより、歩行者空間や交通結節機能の充実を図る。
- 上野恩賜公園と市街地をつなぐ歩行者空間の再編・充実、地下及び上空空間の活用等により、わかりやすい動線整備を行う。

②御徒町駅周辺における都市基盤の充実・活用

- 御徒町駅周辺では、安全な歩行者空間の創出や交通結節機能の強化を図るとともに、高級品を取り扱うジュエリータウンをはじめとした、商業集積としての魅力向上や、訪れやすい都市空間を形成する。
- パンダ広場等の公共性の高い施設や敷地の有効活用により、さらなる賑わいの創出を図る。

(5) 利便性の高い生活・住環境の創出と商店街の活性化

①質の高い職住近接の都心居住の促進

- 商業・業務機能やみどりの集積等を活かした質の高い集合住宅の誘致などにより、職住近接の都心居住を推進する。

②近隣型商店街の活性化

- 近隣型商店街は、多様化する消費者ニーズへの対応による活性化を推進し、地域生活を支え、コミュニティ形成に資する場として活用する。

1 上野地域

(6) 総合的な防災力の高いまちの実現

①帰宅困難者対策と避難動線の整備

- 上野駅周辺では帰宅困難者対策充実のため、民間開発により一時滞在施設等を確保するとともに、区民や外国人観光客を含む来街者への適切な情報提供等を行う。
- 避難場所である上野恩賜公園へのわかりやすい避難動線を整備する。

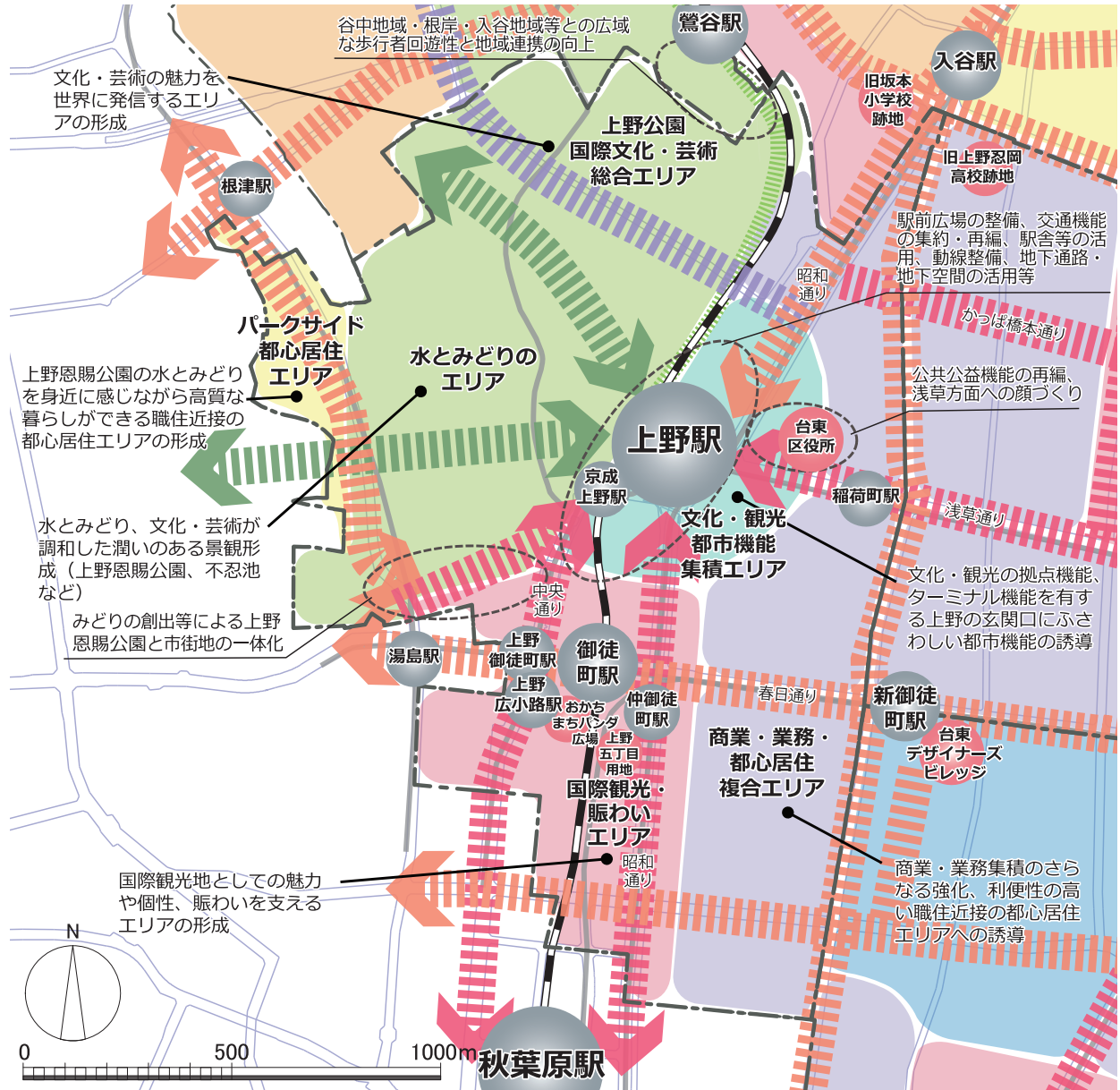
②防災活動拠点機能の充実と地域の事業継続性の向上

- 防災活動拠点機能を充実させるとともに、災害時にもまちの主要機能や中核となる事業が継続できるまちづくりの推進のため、業務集積地における災害時のエネルギー確保を検討する。

③地域全体の総合的な防災性の向上

- 旧耐震基準で建築された建物が集積するエリアや幹線道路沿いでは建物の更新や耐震化を促進する。
- 建物の不燃化・耐震化やコミュニティの強化等を推進し、地域全体の総合的な防災性の向上を図る。
- 集中的な大量の降雨などによる荒川の氾濫等、水害への対策を検討する。

■上野地域まちづくり方針図



<p>【エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上野公園国際文化・芸術総合エリア及び水とみどりのエリア 文化・観光・都市機能集積エリア 国際観光・賑わいエリア 商業・業務・都市居住複合エリア パークサイド都市居住エリア <p>【駅と施設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅 主な公共施設 	<p>【みち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光・賑わいのみち 生活・文化のみち 生活・賑わいのみち みどり・歴史のみち <p>【一般】</p> <ul style="list-style-type: none"> JR在来線 その他鉄道 都市計画道路 崖線 地域境界
---	---

2 谷中地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯	
～江戸期	上野の山に寛永寺が建立され、その後、神田寺町から多くの寺院が移転し、現在の寺町が形成された。
明治期～戦前	明治7年（1874年）に開設された谷中墓地は後に谷中霊園となり、上野恩賜公園から連続する広大な緑地空間が形成された。
戦後	震災や戦災を免れ、路地や寺院と低層の街並み等が調和し、地域の魅力をつくり出した。坂が多く、中でも「タヤけだんだん」は、坂からの景色が個性的な地域資源の一つとなっている。
現在	狭い路地や老朽化した木造住宅が多く、防災面に喫緊の課題がある。良好な住環境を守るコミュニティ活動が活発である。

江戸期の町割による都市構造



■まちづくりのトピック

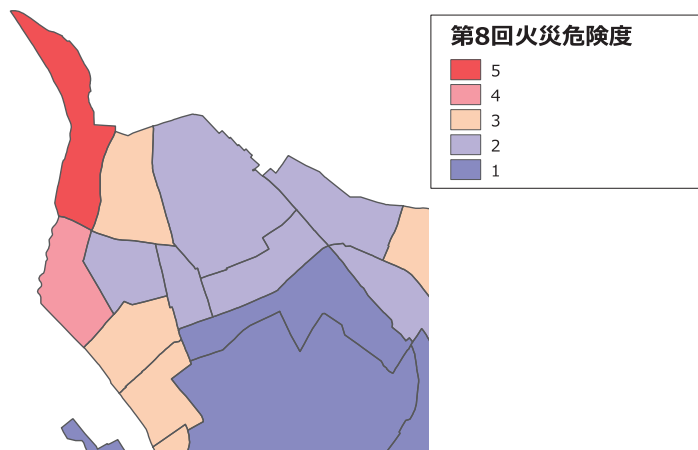
総合的な防災性の向上

- 火災危険度の高い地域が一部存在し、市街地の安全性向上が必要である。
- 谷中二・三・五丁目地区密集住宅市街地整備促進事業や不燃化特区関連事業が実施されている。

閑静な住環境、独立住宅主体の土地利用

- 広範囲にわたり閑静な住環境が保たれ、独立住宅を中心とした落ち着いた住宅街が形成されている。

火災危険度



出典：地震に関する地域危険度測定調査（第8回）より作成



落ち着いた住宅街

寺町の雰囲気、低層主体の街並み

- 寺院や文化財等の歴史・文化資源が多く、路地や坂と相まって、特徴的な景観が形成されている。
- 寺院と低層住宅を中心とした、上空に広がりのある街並みが形成されている。



低層住宅を中心とした街並み

谷中霊園・寺院のみどりと上野恩賜公園との連携

- 多数の寺院と谷中霊園があり、緑被率が高いため、住宅街周辺で身近にみどりを感じることができる。
- 隣接する上野恩賜公園との連続性を活かしたまちづくりが必要である。



上野恩賜公園周辺の街並み

■谷中地域の将来像

歴史・みどりを引き継いだ 生活・文化を大切にするまち

歴史・文化・自然の中で人々が交流する生活・文化調和ゾーンが形成されるとともに、地域の歴史を引き継ぎながら、防災性の高いまちづくりが実現しています。

まちの至るところで広い空と豊かなみどりを感じられ、暮らしやすい生活・住環境、歩いて暮らせる道路環境が形成されています。

2 谷中地域

■谷中地域まちづくり方針

(1) 歴史・文化・みどりの中で人々が交流する生活・文化調和ゾーンの形成

①生活・文化調和ゾーンの形成

- 歴史、文化、みどりの資源や地域の歴史を伝える建物、寺町としての情緒、商店街、路地、坂などの地域特性の保全・活用により、個性ある生活スタイルを支える生活・文化調和ゾーンを形成する。
- 谷中銀座、よみせ通り、谷中三崎坂等は、個性ある商店街として環境整備を進める。

(2) 地域の歴史を引き継いだ防災性の高いまちづくりの推進

①建物の更新等による防災性の向上

- 防災上の課題のある地区では、路地空間などの街並みを活かしながら、建物の更新や共同化等を推進し、地域全体の防災性向上を図る。
- 防災性向上のため、オープンスペースの確保や敷地の細分化の防止等を図る。

②道路整備とあわせた防災性の向上

- 路地空間等の情緒ある街並みを活かしながら、円滑な防災活動の空間確保を目的とした道路の拡幅整備や無電柱化を必要に応じて推進する。
- 狭あい道路の沿道では、建物の建替えとあわせた道路の拡幅整備に取り組み、市街地の防災性の向上を図る。

(3) 広い空と豊かなみどりを感ずることができる景観誘導

①景観に配慮したまちづくりの推進

- 低層の街並みを守るゾーンを基本としつつ、幹線道路沿道等の一部中層化を許容するゾーンを区分するなど、景観に配慮したまちづくりを進める。
- 道路や沿道建物等における色彩や照明、デザインなど、沿道空間が一体となった落ち着きと魅力のある景観を形成する。

②みどりの保全と緑化の推進

- 谷中霊園や防災広場等の既存のみどりや沿道のみどりは、まちの魅力を創出する資源として保全を図る。
- 寺町の風情を感じる空間として、寺院や民有地内の樹木の保全や、上野台地崖線のみどりの保全・創出を図る。

(4) 暮らしやすい生活・住環境の維持・保全

①良質な生活・住環境の維持

- みどりや路地空間の残る低層住宅を基本とした落ち着いた街並みの維持や、生活と観光の調和により、良好な生活・住環境を維持する。
- 住環境に配慮しつつ小規模の生活利便施設の立地を誘導する。

②多様な世代が住み続けられる住宅の維持・保全・活用

- 防災性の向上が図られた既存ストックの活用などにより、多様な世代が住み続けられる住宅地を形成する。

(5) 道路整備とあわせて歩いて暮らせるまちづくり

①歩行者中心のまちづくりの推進

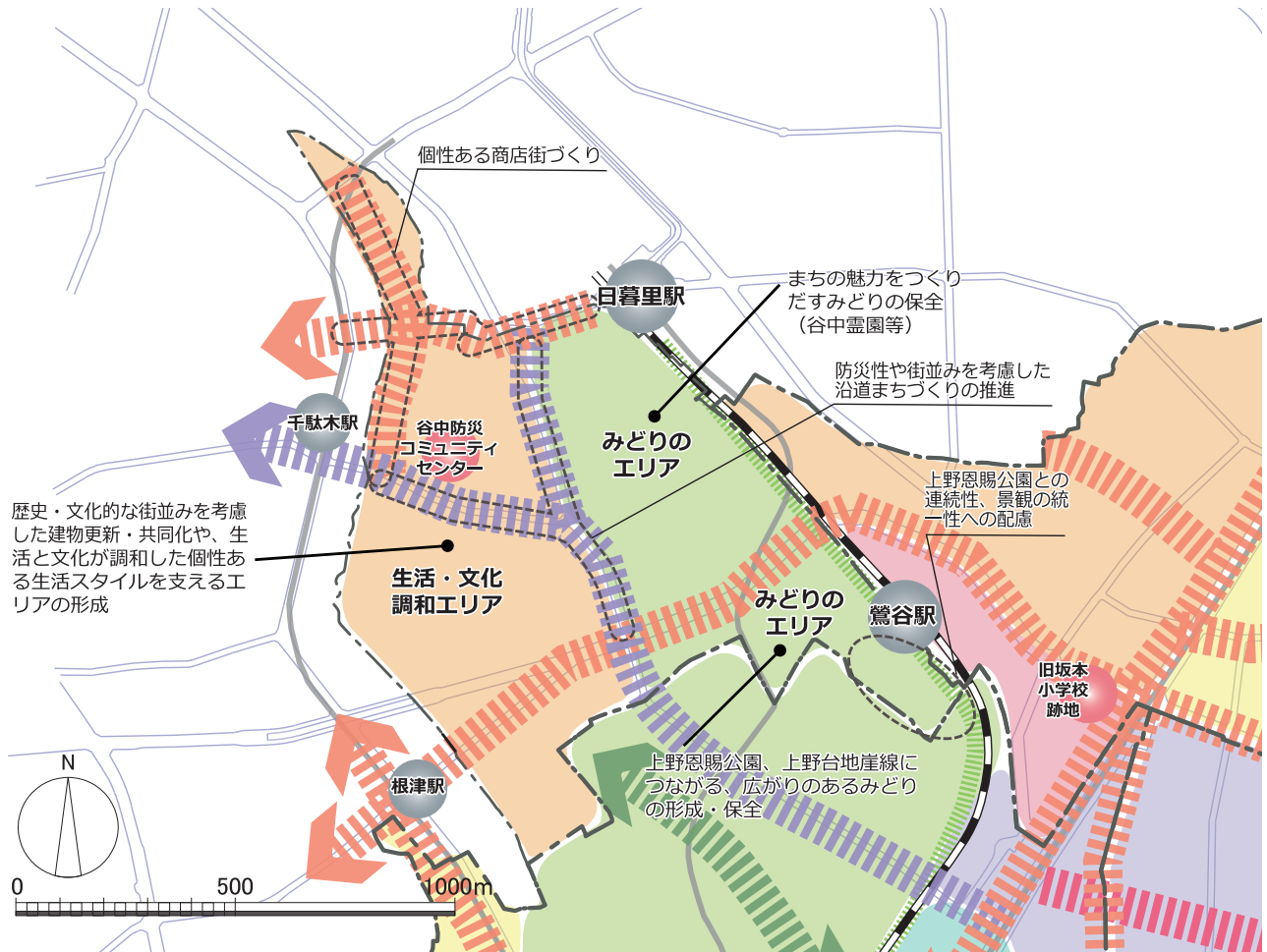
- 「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」（東京都 平成28年）において道路整備の実現に向けて検討を行うとされた環状3号線、補助95号線は、地形や現在の土地利用、沿道のまちづくり等を考慮し、必要とされる道路機能を発揮する整備形態の検討を進める。特に環状3号線は広域ネットワークを担う幹線道路としての位置付けを踏まえた整備を進める。
- 自動車通過交通の進入抑制、車両の速度低減等により、多くの人々が安心して生活し、楽しみながら行動できる道路整備を進める。
- 「都市計画道路の見直し方針について」（東京都 平成27年）において都市計画の廃止の方針が示された補助92号線、補助178号線、補助188号線の周辺では、防災性の向上や歴史的・文化的資源と貴重なみどりを活かしたまちづくりを推進する。

②歩行者ネットワークの充実

- 快適で歩きたくなる歩行者空間を形成するとともに、上野恩賜公園、根津・千駄木地域等の隣接地域との歩行者ネットワークや地域内に多い寺院のみどりや歴史ある文化資源を結ぶ歩行者ネットワークを充実させ、人々の交流促進を図る。

2 谷中地域

■谷中地域まちづくり方針図



【エリア】	【みち】
生活・文化調和エリア	生活・文化のみち
みどりのエリア	生活・賑わいのみち
【駅と施設等】	【一般】
鉄道駅	JR在来線
主な公共施設	その他鉄道
	都市計画道路
	崖線
	地域境界



台東区都市計画マスタープランとは
第1章

台東区の現況
第2章

台東区が目指すまちの姿
第3章

分野別まちづくり方針
第4章

地域別まちづくり方針
第5章

まちづくりの実現に向けて
第6章

巻末資料

3 浅草・中部地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯	
～江戸期	浅草寺を中心として発展し、人々の行楽地、繁華街として栄えた。浅草寺の南側には寺町が形成され、北側は浅草田圃と呼ばれる田園地帯が広がり、吉原の移転や猿若三座の芝居興行等により独自の文化が開花した。
明治期～戦前	浅草六区等の歓楽街が出現し、娯楽・芸能の中心として隆盛を誇った。大正時代には、西側に道具商、古物商の街が形成された。 現在の東京メトロ銀座線や東武鉄道が開業した。
戦後～現在	江戸期から引き継いできた文化を基礎に、伝統的な祭りや行事が年間を通して開催されている。江戸の面影が残る行楽地として、国際観光都市の地位を築き上げた。 都営地下鉄浅草線、同大江戸線、つくばエクスプレスが開業した。

江戸期の町割による都市構造



- 凡例
- 寺社地
 - 武家屋敷
 - 町人地
 - 大雑地(町人地)
 - 御米蔵・榎御蔵
 - 農村地
 - 墨引

■まちづくりのトピック

国際観光拠点の形成

- 浅草寺とその周辺は、日本を代表する国際観光拠点となっている。
- 豊かな文化や伝統を有し、四季折々の多彩な祭りなど、観光資源が豊富に存在し、広域的な商業エリアが形成されている。

地域の安全性向上

- 地域と事業者、行政が一体となり、地域の安全性向上に取り組むとともに、区民のみならず、来街者も含めた帰宅困難者対策が必要である。



一年中観光客などで賑わう浅草寺周辺



観光時の災害緊急避難MAP
出典：浅草観光連盟HP

隅田川と船着場

- 東側の隅田川と隅田公園は、貴重な水辺空間となっている。
- 浅草駅周辺には、浅草東参道二天門や桜橋等の防災船着場がある。



貴重な水辺空間である隅田川

浅草寺周辺の景観

- 浅草寺を中心に寺社や観光資源が多く存在し、江戸の風情が感じられる街並みが形成されている。
- 地域主体での景観形成の取り組みが活発に行われている。



江戸の風情が感じられる街並み

■浅草・中部地域の将来像

歴史・文化を育み 新たな賑わいを創造するまち

国際観光都市浅草にふさわしい、防災性の高いまちが実現されているとともに、伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間や、歴史・文化にふれ、賑わいが広がる歩行者ネットワークが形成されています。

隅田川周辺の親水性の高い環境や江戸から続く歴史の風情を感じる街並みをはじめ、魅力の高い都市景観が形成されています。

観光や商業、居住等の多様な機能が共生するまちが実現しています。

3 浅草・中部地域

■浅草・中部地域まちづくり方針

(1) 国際観光都市浅草にふさわしいまちづくりの推進

①国際観光拠点機能の充実

- 歴史と観光資源、商業地の活力、隅田川の水辺空間等を活かした国際観光拠点機能の充実を図る。
- 浅草寺周辺の景観に配慮した街並みを検討し、観光地にふさわしい風格ある景観形成を図る。
- 隅田川の舟運の充実や新たなルートの設定を誘導する。

②国際観光都市にふさわしい環境整備

- 東武浅草駅のターミナル性向上に加え、東京メトロ浅草駅と都営浅草駅の3駅を相互に結ぶ利便性の高い動線整備及びバリアフリー化などにより、乗り換えや交通結節機能の充実を図る。
- 観光バスについては、安全・安心な生活・住環境の確保に向けた総合的な対策を引き続き推進する。

(2) 防災性の高いまちづくり

①帰宅困難者対策と避難動線の整備

- 浅草駅や浅草寺周辺では、観光客や外国人居住者向けのわかりやすい防災情報提供や一時滞在施設等の充実など観光客・来街者を対象とした災害対策を推進する。
- 避難場所である隅田公園や上野恩賜公園への視認性向上など、分かりやすい動線を整備する。

②建物の更新等による防災性の向上

- 旧耐震基準によって建築された建物等の更新を誘導し、特に幹線道路沿いの耐震化を促進する。
- 建物の不燃化・耐震化やコミュニティの強化を進め、総合的な防災力の向上を図る。

③水害対策

- 集中的な大量の降雨などによる荒川の氾濫、高潮等の水害対策を検討する。

(3) 伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間の整備

①商業集積と商店街の賑わい創出

- 仲見世、かっぱ橋道具街等の個性的な商店街の集積を活かし、賑わいの連続性を充実させる。

②商業空間の魅力向上に資する環境整備

- 浅草六区地区では、道路空間を活用したオープンカフェの設置等により、まちの魅力や賑わいを向上させる取り組みを推進する。
- 駐車需要に対応した駐車場や自転車等駐車場を整備するとともに、商業地における荷捌きのルールを検討する。

(4) 歴史・文化にふれ賑わいが広がる歩行者ネットワークの形成

①歩行者空間の充実

- 浅草駅・浅草寺周辺、隅田川、隅田公園、商店街等を回遊できる歩行者空間の充実、オープンスペースの設置等により、歩行者ネットワークの充実を図る。
- 浅草通りやかっぱ橋本通り、雷門通りは、上野地域と浅草寺・隅田川を結び、賑わいの連続性を高める歩行者中心の空間形成を図る。

②賑わいの周辺地域への波及

- 浅草・中部地域の賑わいを北部地域等の周辺地域にも広げる歩行者ネットワークの充実を図る。

(5) 隅田川周辺の親水性の向上と景観形成

①隅田川の親水性の向上

- 親水テラス及び防災船着場や、民間による水辺空間の活用などにより、賑わい創出及び魅力向上を図り、まちとの連続性を確保する。
- 隅田公園は桜の名所として、桜樹の保全・再生を図るとともに、みどりのさらなる充実を図る。

②隅田川と調和したまちづくりの推進

- 隅田川からの眺望の確保や、水辺と調和した周辺の街並みの景観形成を図る。
- まちづくりの進捗や建物の更新にあわせたスーパー堤防の整備により、広域的な防災性向上を図る。

③対岸地域とのまちづくりの連携

- 墨田区とのまちづくりの連携を図り、一体性のある空間整備を推進する。

(6) 江戸から続く歴史の風情を感じる街並みの形成

①歴史・文化資源や風情を活かした街並みの形成

- 浅草寺・浅草駅周辺は、浅草寺の景観や歴史・文化や祭りなど一年を通じて風情を感じられる街並み形成を推進する。
- 幹線道路沿いは、街並みの調和やまちの連続性を確保し、地域の顔となる景観を形成する。

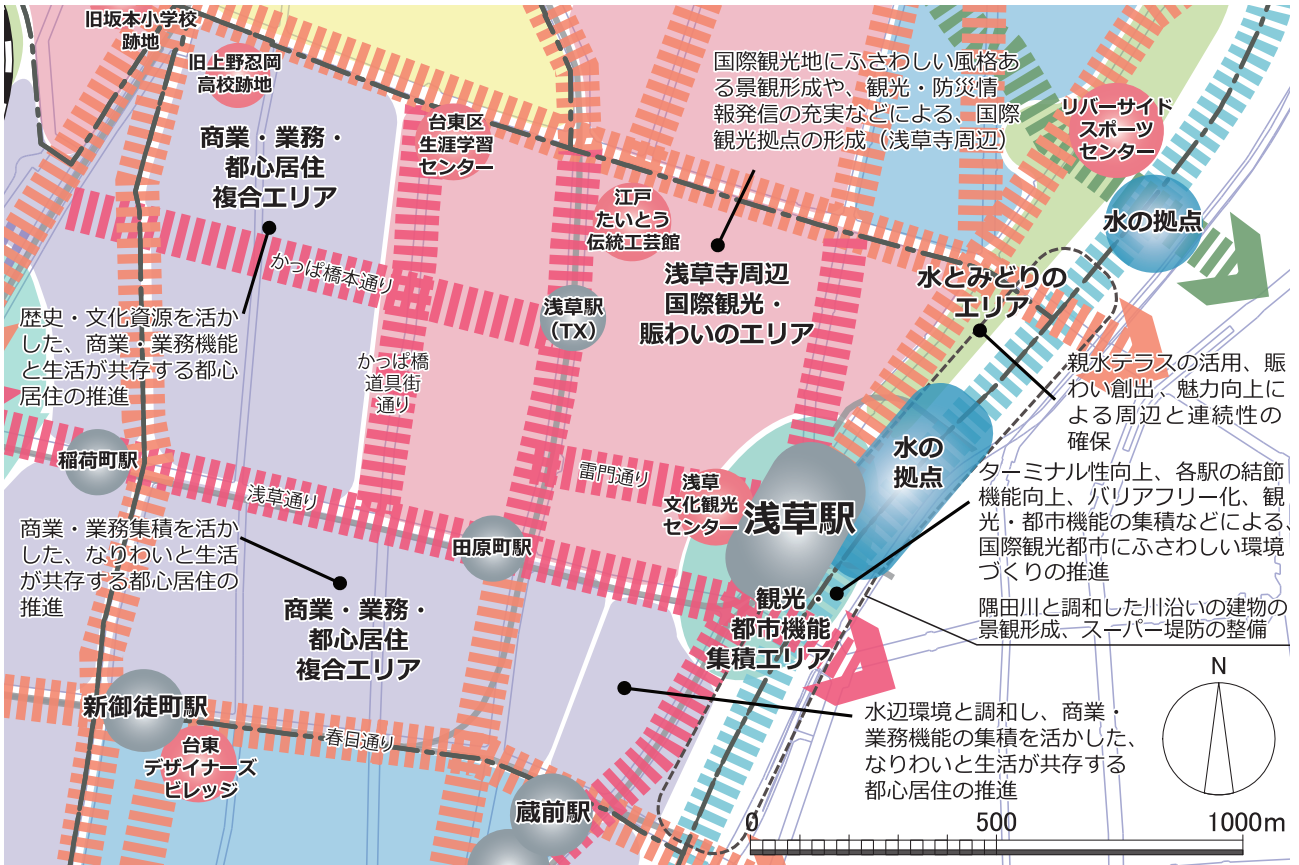
3 浅草・中部地域

(7) 観光や商業、居住等の機能が共生するまちづくりの推進

①多様な機能が共生する活力あるまちづくりの推進

- 浅草通り、春日通りなど幹線道路沿いやかっぱ橋道具街では、店舗や住宅などの複合地として、賑わいの連続性や地域の活力を支えるまちづくりを推進する。
- 幹線道路に囲まれた内側の市街地では、歴史・文化資源や寺社等のみどり、街並みを活かしながら、快適で生活利便性の高い生活・住環境を形成し、職住近接の都心居住を推進する。
- 中高層化を許容するゾーンと街並みを守るゾーンとを区分するなど、多様な機能・環境が調和したまちづくりを推進する。

■浅草・中部地域まちづくり方針図



【エリア】	【みち】
浅草寺周辺国際観光・賑わいのエリア	観光・賑わいのみち
観光・都市機能集積エリア	生活・賑わいのみち
商業・業務・都心居住複合エリア	水・みどりのみち
水とみどりのエリア	
	【一般】
	JR在来線
	その他鉄道
	都市計画道路
	地域境界
【駅と施設等】	
鉄道駅	
主な公共施設	
水の拠点	

4 根岸・入谷地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯

～江戸期

この地域は市街地の外縁で、入谷田圃と呼ばれた田園地帯が広がっていた。朝顔の栽培に入谷の土が適していることから、植木屋が集まり、朝顔の市がたつようになった。江戸中期には、寺院や商人の寮、文人墨客の隠居所等が増えた。三ノ輪は、奥州街道の江戸の玄関口の一つとして栄えた。

江戸期の町割による都市構造



明治期～戦前

風雅の歴史が受け継がれ、この地に住む文人による「根岸派」と称する文学活動が展開された。家具職人が多く住み、竜泉周辺には、大商人の別荘が多く見られた。

戦後～現在

JR鶯谷駅や東京メトロ日比谷線の三ノ輪駅及び入谷駅が開業した。幹線道路沿道を中心に、建物の高層化が進んでいる。震災・戦災を免れた地域の防災性向上のみならず、水害への対応も求められている。

凡例	
■	寺社地
■	武家屋敷
■	町人地
■	大縄地 (町人地)
■	御米蔵・稲御蔵
■	農村地
—	墨引

■まちづくりのトピック

大規模区有地の活用

○大規模区有地である旧坂本小学校跡地は、立地特性を踏まえた活用の検討が必要である。

閑静な住宅街と集合住宅エリアの共存

○根岸エリアは、歴史ある文化資源を有し、低層中心の閑静な住環境が形成されている。

○昭和通りや金杉通りなどの幹線道路沿道では、近年中高層の集合住宅が増加している。

○上野に近接し、鶯谷駅、入谷駅、三ノ輪駅の3駅があり、交通利便性が高い。



旧坂本小学校跡地



低層中心の閑静な住環境



幹線道路沿道の集合住宅

上野恩賜公園への近接性

- 鶯谷駅周辺は、上野恩賜公園北側に近接する立地特性を有している。
- 隣接する上野恩賜公園との連続性を活かしたまちづくりが必要である。



鶯谷駅の駅舎

宿泊施設の集積

- 鶯谷駅周辺には、宿泊施設を含む商業機能が集積している。



鶯谷周辺の商業機能の集積

■根岸・入谷地域の将来像

歴史・文化の風情や利便性を享受し 個性豊かに暮らせるまち

閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点が形成され、快適で利便性の高い生活・住環境が実現しています。

地域資源や宿泊機能を有する地域では、来街者の受入れ機能が強化されています。

高い防災性と落ち着いた風情が両立するとともに、歴史・文化やみどりをを感じる風情ある街並みが形成されています。

4 根岸・入谷地域

■根岸・入谷地域まちづくり方針

(1) 閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点の形成

①閑静で落ち着いた生活圏の形成

- 住居系の地域では、歴史ある文化資源を活かしながら、みどりや路地空間の残る低層主体の土地利用を図り、閑静で落ち着いた生活圏を形成する。
- 比較的幅員の広い道路の沿道では、周辺の市街地環境に配慮した街並みの誘導や緑化等により、景観に配慮した整備を図る。
- オープンスペース等における身近に感じるみどりの創出、歴史や伝統等の文化を活かした街並みの整備等により、質の高い生活空間を形成する。

②コミュニティの核となる地域拠点の形成

- 旧坂本小学校跡地の活用により、上野恩賜公園との歩行者の回遊性や地域連携の向上、多様なコミュニティを支える生活・交流拠点を形成する。

(2) 快適で利便性の高い生活・住環境の整備

①生活利便性の向上

- 三ノ輪駅・入谷駅周辺では地域生活を支える機能を誘導する。
- 金美館通り等の活性化により、近隣住民の生活利便性向上を図るとともに、歩行者が楽しめる空間を整備する。

②魅力的な市街地環境の創出

- 昭和通りの東側では、建物の建替えとあわせたオープンスペースやみどりの創出を図り、魅力的な生活・住環境を整備する。
- 駅周辺の歩行者空間の確保や駐輪対策等により、快適な市街地環境を創出する。

(3) 来街者の受入れ機能の向上

①鶯谷駅の駅前空間整備

- 上野恩賜公園の北側に近接する立地にふさわしい駅前空間を整備する。
- 市街地と上野台地との間にある高低差については、バリアフリー化をより一層進めるとともに、上野恩賜公園と連携した鶯谷駅周辺の整備を進める。
- 上野台地の崖線周辺におけるみどりの保全や充実を図る。

②来街者の受入れ機能の強化

- 地域固有の資源のさらなる活用を図るとともに、賑わい・商業機能等、来街者の受け入れ機能を誘導する。
- 宿泊機能の再編・拡充により、駅周辺地域の魅力向上を図る。

(4) 防災性向上と落ち着いた風情が両立するまちの形成

①地域の防災性向上

- 路地空間などのある街並みを活かしながら、建物の耐震化・不燃化の推進、狭あい道路の拡幅等により地域全体の防災性向上を図る。
- JR線路を横断する跨線橋の耐震性確保等の取り組みを強化する。
- 主要幹線道路沿道では周辺の市街地環境に配慮した街並みの誘導や緑化等を図りながら、建物の耐震化を促進する。
- 集中的な大量の降雨などによる荒川の氾濫等、水害への対策を検討する。

(5) 歴史・文化・みどりを感ずる風情ある街並みの創出

①歴史・文化資源と調和した景観の形成

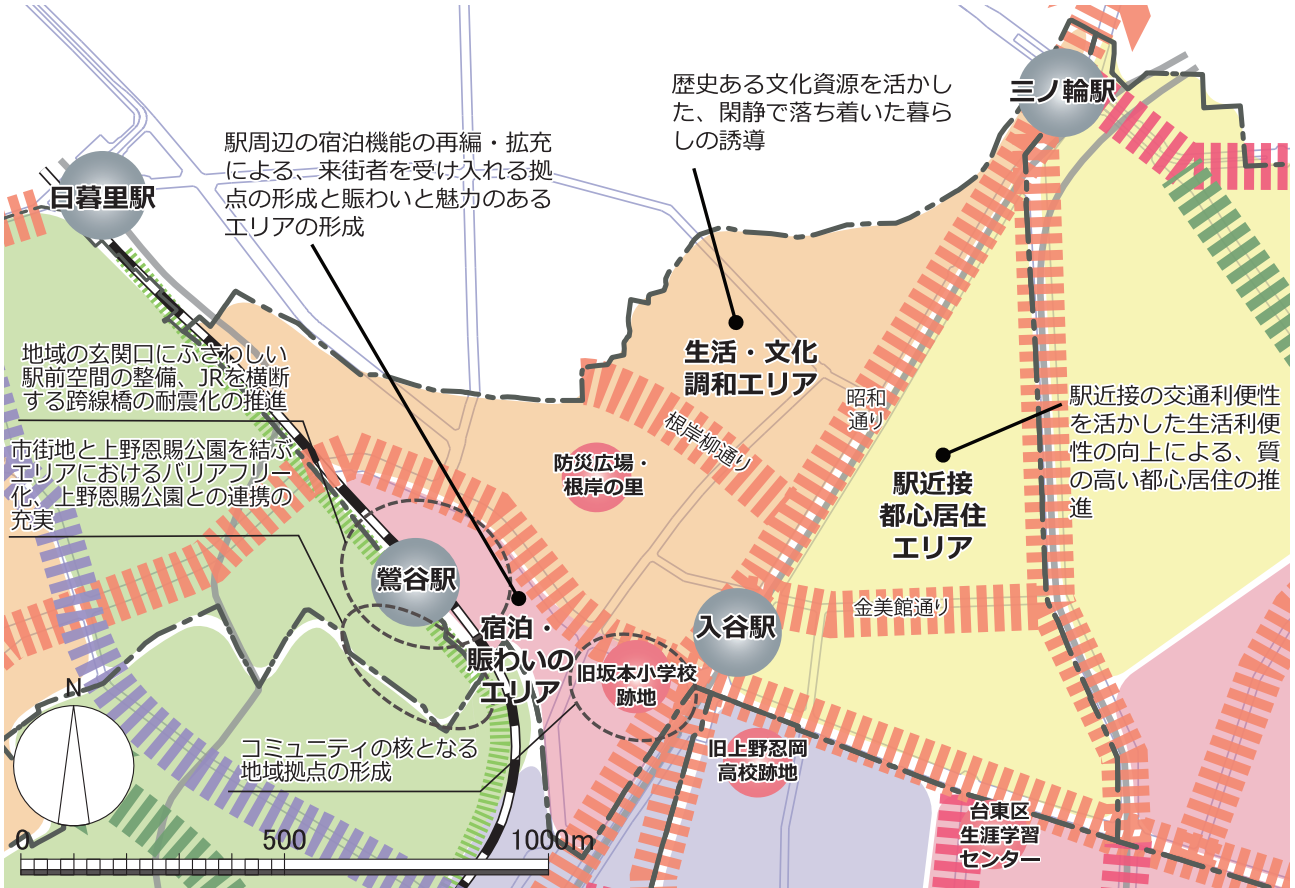
- 江戸の情緒を残す、みどりに関連した催事などの地域資源や、歴史・伝統のある文化資源を活かした景観形成に努め、風情を感じる街並み形成を推進する。

②歩行者空間の整備とみどりの創出

- オープンスペース等の整備、案内サインの設置、地域特性を活かした植栽等により、地域内に点在する寺社や催事が開催される名所・旧跡、文化資源等を巡る歩行者ネットワークの充実を図る。
- 根岸柳通り沿道では、良好な街並みを形成するとともに、東西方向の歩行者ネットワーク強化を進める。

4 根岸・入谷地域

■根岸・入谷地域まちづくり方針図



【エリア】	【みち】
生活・文化調和エリア	生活・賑わいのみち
駅近接都心居住エリア	
宿泊・賑わいのエリア	
【駅と施設等】	【一般】
鉄道駅	JR在来線
主な公共施設	その他鉄道
	都市計画道路
	崖線
	地域境界



台東区都市計画マスタープランとは
第1章

台東区の現況
第2章

台東区が目指すまちの姿
第3章

分野別まちづくり方針
第4章

地域別まちづくり方針
第5章

まちづくりの実現に向けて
第6章

巻末資料

5 北部地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯	
～江戸期	浅草寺の北側には猿若三座があり、江戸随一の芝居興行街となっていた。橋場から今戸にかけての川岸には渡船場があり、日本堤と呼ばれる堤防が築かれ、江戸を水害から守るための治水対策が施された地域であった。奥州街道と日光街道の江戸への入口としての役割を担っていた。
明治期～戦前	多くの宿屋や長屋が立地していた。明治5年（1872年）、皮革・靴伝習所の浅草橋場町移転を契機に、一帯が「靴の町」として繁盛し、地域産業に発展した。
戦後	戦後から高度経済成長期にかけて、簡易宿泊所の存在と労働力需要を背景に、仕事を求める人々が集まってきた。皮革産業の町工場が集積し、職住近接の街として栄えた。
現在	産業構造の変化、労働需要の減少等によりまちの状況が変化しつつある。隣接する南千住や汐入地区の開発が進み、つくばエクスプレス南千住駅が開業した。

江戸期の町割による都市構造



- 凡例
- 寺社地
 - 武家屋敷
 - 町人地
 - 大畑地（町人地）
 - 御米蔵・糶御蔵
 - 農村地
 - 墨引

■まちづくりのトピック

大規模区有地の活用

○この地域には旧東京北部小包集中局跡地があり、地域内外の活力向上に欠かせない大規模区有地であるため、今後、拠点形成を図る必要がある。



旧東京北部小包集中局跡地

皮革産業を中心としたものづくり

- 今戸・橋場地域は、皮革製品製造を中心とする産業の集積がある。
- 地域産業などの産業振興の拠点となる浅草ものづくり工房がある。



浅草ものづくり工房

生活利便性

- 商店街の活性化を含めた生活利便性の向上が必要である。
- 区内の他地域に比べて交通利便性が低いエリアがある。

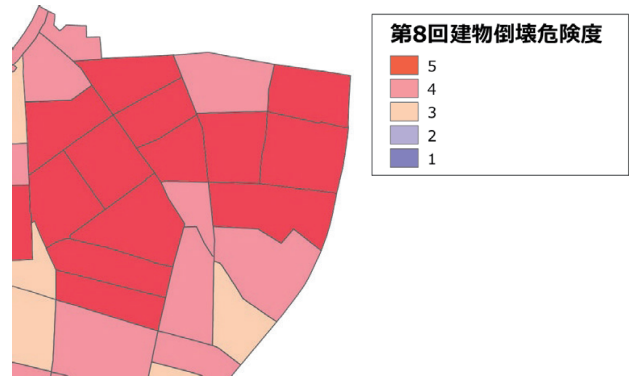
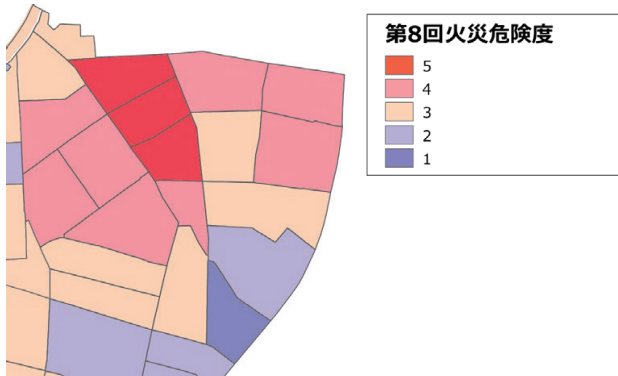
鉄道・バス利用圏域図



防災性

- 火災危険度、建物倒壊危険度が高いエリアが大きく広がり、いずれも危険度5のエリアがある。

火災危険度と建物倒壊危険度



出典：地震に関する地域危険度測定調査（第8回）より作成

■北部地域の将来像

人々が共生し 住み働き続けられる便利なまち

地域全体の生活利便性を向上させる拠点が形成され、地域内外の回遊性が高く、都市機能が充実したまちが形成されています。

地域の個性を活かした賑わいが生まれ、コミュニティを大切にする住みやすい生活圏が形成されています。

防災性の高いまちが形成されているとともに、浅草・中部地域との連続性を確保する、みどりがあふれるネットワークが形成されています。

5 北部地域

■北部地域まちづくり方針

(1) 地域拠点の形成と地域内外の回遊性向上による総合的な都市機能の向上

①地域拠点の形成

- 官民連携の取り組みにより、旧東京北部小包集中局跡地に賑わい・交流の場を創出する。
- リバーサイドスポーツセンター屋外施設及び周辺環境の整備により、スポーツや健康まちづくりに資する拠点性の向上や周辺地域との回遊性の創出を図る。
- 隅田川の舟運の充実や新たなルートの設定を関係機関に働きかける。

②新たな交通機能の導入検討

- 地域の交通利便性向上や、空港へのアクセス性向上等に資する広域な交通ネットワーク形成を図るため、新たな交通機能の導入を検討する。

③周辺地域との連携

- 隅田川対岸や南千住地域との連携を図ったまちづくりを推進する。

(2) 地域特性を活かした賑わいの創出

①地域産業や文化資源などの地域特性を活かしたまちづくりの推進

- 皮革産業等の地域産業については、時代のニーズに合った企画・販売促進、人材育成、イメージブランディング等を官民連携により推進し、地域の活力向上を図る。
- 伝統産業や新たな産業を支える場として、「浅草ものづくり工房」等を有効活用する。
- 地域に根差した行事等の風情ある地域資源や、歴史・伝統ある文化資源を活かした景観形成を進める。

②既存ストックを活用したまちづくりの推進

- 商店街を中心とした既存建物のアトリエ店舗への改修など、防災性の向上とあわせた既存ストックの有効活用・機能転換等を推進する。
- 外国人観光客等の増加による宿泊需要の変化を踏まえ、宿泊機能の更新や機能転換を促進する。

(3) 地域コミュニティを大切にす住みやすい生活圏の形成

①安全で快適な住みやすい生活圏の形成

- 商店街の活性化や、生活利便施設の誘導により、生活利便性の向上を図る。
- 都市計画道路の未整備区間の整備を推進するとともに、歩行者と車両が分離された安全で快適な歩行者空間を確保する。
- 山谷地域については、これまで取り組んできた環境衛生等の地域環境改善対策や就労対策、福祉・保健衛生対策等について、引き続き総合的に推進する。

②職住近接の良質な住宅の供給

○土手通り、吉野通り、橋場通り、明治通り等の主要な道路沿いでは、既存建物の更新にあわせて、職住近接を実現する質の高い住宅の供給と良質な住環境の形成を推進する。

③職と住が融合した住宅供給の誘導

○皮革産業等が集積する地区では、建物の更新にあわせて職と住が融合した住宅供給を誘導し、地域の活力向上を図る。

④地域コミュニティの形成

○地域住民が誇りと愛着を持てるよう、まちづくり活動を積極的に支援し、地域コミュニティの活性化を図る。

⑤緑化の推進とオープンスペースの整備

○今戸周辺の寺社等のみどりを保全するとともに、建物の共同化や建替え等にあわせてオープンスペースを創出し、みどりと潤いのある空間を創出する。

(4) 地域の防災性の向上

①災害に強いまちづくりの推進

○火災による延焼の危険性が高い地区では、建物の不燃化と狭あい道路の拡幅を促進するとともに、地震による建物倒壊の危険性が高い地区では、建物の耐震化を促進し、安全な市街地の形成を図る。

②水害対策

○集中的な大量の降雨などによる荒川の氾濫、高潮等、水害への対策を検討する。

(5) 浅草地域との連続性を確保するみどりがあふれるネットワークづくり

①隅田川の親水性向上

○隅田川の親水性を向上させ、地域の魅力向上を図るとともに、浅草・中部地域との回遊性向上を推進する。

○まちづくりの進捗や建物の更新にあわせてスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の充実を図る。

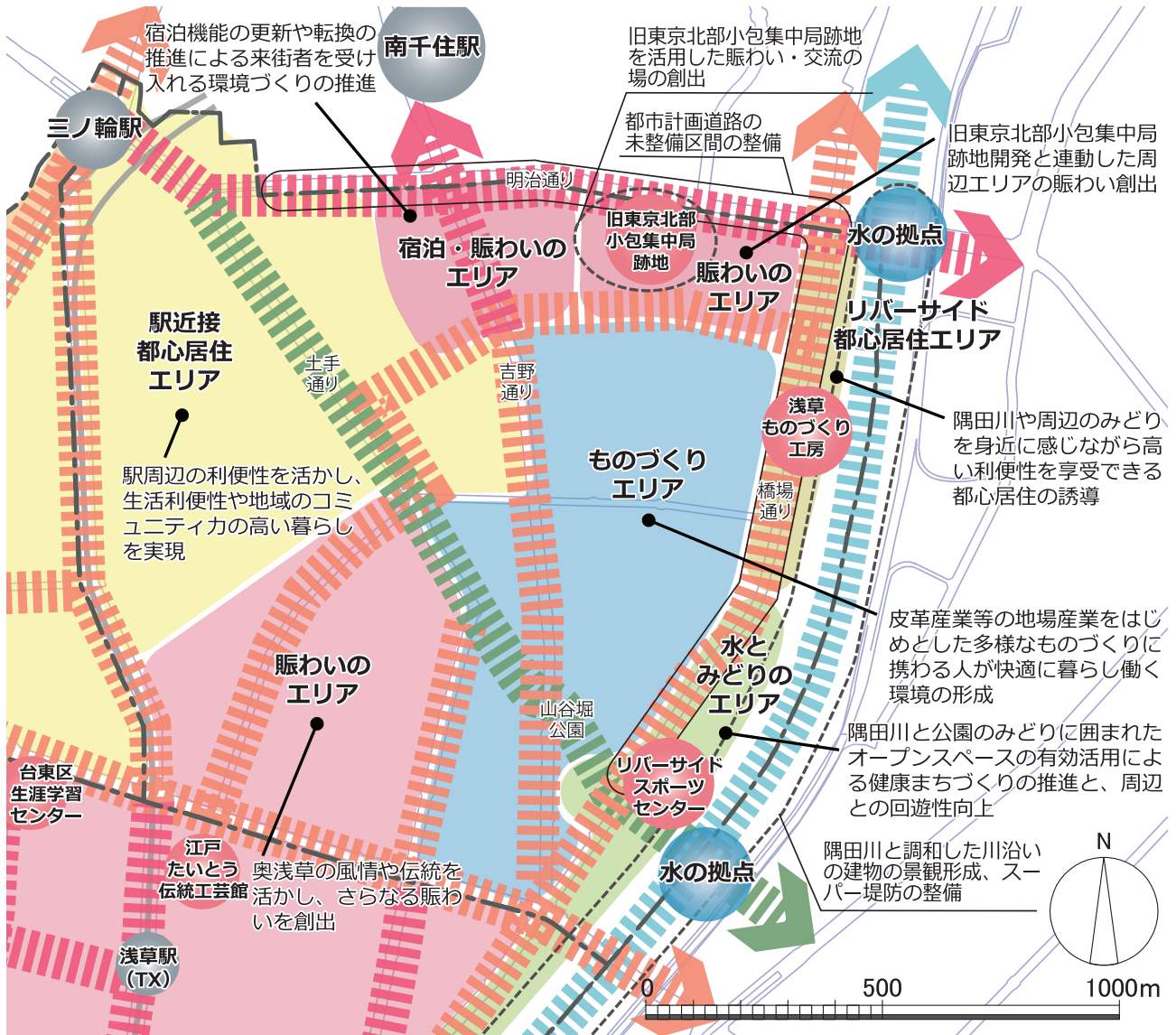
②みどりがあふれる環境の創出

○山谷堀公園から土手通りにかけては、歴史・文化やみどりを感じる歩行者空間の整備により、風情ある地区等を結び、地域の回遊性向上を図る。

○建物の更新にあわせてオープンスペースの創出により、みどりと潤いのある空間の形成を図る。

5 北部地域

■北部地域まちづくり方針図



【エリア】	【みち】
ものづくりエリア	生活・賑わいのみち
宿泊・賑わいのエリア及び賑わいのエリア	みどり・歴史のみち
駅近接都心居住エリア	水・みどりのみち
リバーサイド都心居住エリア	観光・賑わいのみち
水とみどりのエリア	
【駅と施設等】	【一般】
鉄道駅	JR在来線
主な公共施設	その他鉄道
水の拠点	都市計画道路
	地域境界



台東区都市計画マスタープランとは
第1章

台東区の現況
第2章

台東区が目指すまちの姿
第3章

分野別まちづくり方針
第4章

地域別まちづくり方針
第5章

まちづくりの実現に向けて
第6章

巻末資料

6 南部地域

■地域の成り立ち

歴史的な経緯	
～江戸期	奥州街道・日光街道には浅草見附が設置されるなど、街道沿いが発展し、文房具・玩具を中心とする問屋街及びそれに関連する町工場街が形成された。蔵前には幕府の年貢米を貯蔵する浅草御蔵があり、江戸中期には柳橋付近に花街が形成され、賑わいがあった。
明治期～戦後	地域の大部分が震災・戦災の被害を受けた。現在のJR総武線や東京メトロ浅草線が開業した。
現在	江戸期に形成された問屋街は、現在でも人形、玩具、手芸等の問屋・専門店街として受け継がれている。また、戦災を免れた一部地域では、戦前の特徴的な建物が残っている。都営地下鉄浅草線、同大江戸線、つくばエクスプレスの開業に伴い、高層マンションが増加している。

江戸期の町割による都市構造



■まちづくりのトピック

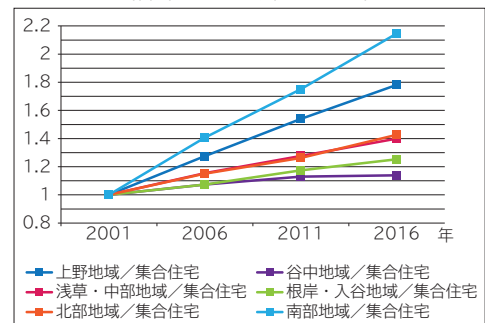
ものづくり

- 平成16年（2004年）、台東デザイナーズビレッジが開設され、ファッションビジネスの創業支援施設として活用されている。
- 近年は御徒町から蔵前の間（カチクラエリア）を中心に、ものづくり産業に活気がある。



台東デザイナーズビレッジ

集合住宅の棟数推移（対2001年比）
（都市マス地域区分ごと）



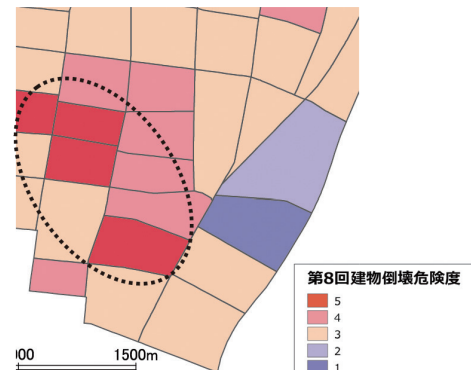
集合住宅、子育て世代の増加

- 近年は特に集合住宅の建設が多く、また、若い世代が増加しており、その動向に対応した市街地環境の形成や機能誘導が必要である。

市街地の安全性

- 戦災被害が少ない鳥越・小島エリアは、老朽建物・敷地面積の小さい建物が密集しており、建物倒壊危険度が高く、不燃領域率が低い傾向にある。

建物倒壊危険度

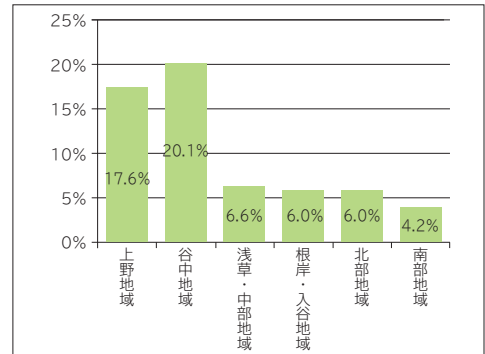


出典：地震に関する地域危険度測定調査（第8回）より作成

みどり

- 貴重な資源である隅田川・神田川に隣接しており、水辺空間の活用や親水性の向上が必要である。
- 他の地域に比べて緑被率や1人当たりの公園面積が狭く、特に緑被率は区内で最も低く、公園等のオープンスペースの創出が必要である。

地域ごとの緑被率



出典：平成30年度台東区みどりの実態調査より作成

■南部地域の将来像

多様な職住近接スタイルを実現し 新たな産業や価値観を生み育てるまち

ものづくりを核とした賑わいが創出されるとともに、利便性の高い都心居住が実現し、それらが融合した新たなライフスタイルが展開されています。

地域の防災性向上や水とみどり、歴史・文化を感じる地域づくりが推進され、安全で魅力的な市街地が形成されています。

コラム

「カチクラ」エリアについて

カチクラとは、^{オカチマチ}御徒町の「カチ」と^{クラマエ}蔵前の「クラ」を組み合わせた造語で、御徒町～蔵前にかけての地域のことをいいます。実際には御徒町、蔵前だけではなく、ものづくり系の店舗が集積している御徒町～蔵前～浅草橋にかけての2km四方の地域を指すことが多く、浅草橋、柳橋、台東、小島、寿、三筋、駒形、鳥越、東上野、元浅草の全域または一部が含まれています。

江戸時代、浅草橋周辺に問屋街が形成され、人形、玩具などの製造や卸売業の集積地として発展しました。このような古くからの産業集積に加え、近年は御徒町、蔵前などを含む広域において、ものづくり系工房や企業、ショップなどの集積がみられ、「ものづくりのまち」として注目を集めています。



イベント期間中のおかず横丁

6 南部地域

■南部地域まちづくり方針

(1) ものづくりによる賑わいの創出と魅力向上

①ものづくりの活性化に向けた土地利用の誘導

- 防災性向上とあわせた併用住宅のリニューアル等により、ものづくりに携わる人々の活動の場や住宅として活用するなど、ものづくりを核とした地域の活性化を図る。
- まちの佇まいを残しながら、事務所ビルなどの既存ストックの有効活用・機能転換により、職と住が調和した土地利用を誘導する。

②ものづくりによるまちの魅力向上

- ファッションや雑貨、デザイン関連ビジネス分野での起業を目指す人々を支援するため、台東デザインズビレッジを引き続き活用するとともに、店舗・作業所等の改修に対する支援を行い、「ものづくり」のまちの魅力強化・発信する。

(2) 良質で利便性の高い魅力的な生活・住環境の創出

①ライフスタイルを支える土地利用の誘導

- 住宅と商業の併用住宅等による複合的土地利用や、質の高い生活利便施設の誘導により、都心への近接性を活かした、良質で利便性の高い都心居住を誘導する。
- 子育て支援機能の誘導により、子育て世代が安心して暮らせる環境づくりを推進する。
- 地域コミュニティの充実を図り、交流を促進する。

②地域のニーズに対応した商店街の活性化

- 近隣型商店街は、多様化する消費者のニーズへの対応による活性化を推進し、地域生活を支え、コミュニティ形成に資する場として活用する。
- 商店街の建物の建替えにあわせた、低層部への商業施設等の配置の誘導により、商店街の賑わい・連続性を確保する。

③快適で魅力的な市街地環境の整備

- 開発とあわせたオープンスペースやみどりの確保により、潤いある空間形成を図る。
- 蔵前橋通り、春日通り等の幹線道路沿道では、周辺の市街地環境に配慮した街並みを誘導する。

(3) 回遊性向上と賑わいの創出

①駅周辺の回遊性向上と賑わいの創出

- 浅草橋駅周辺では、建物の建替えにあわせた歩行者空間の創出を推進するとともに、輻輳する交通環境の改善やバリアフリー化、鉄道高架下等の空間整備、駅前の賑わいの創出等を推進する。
- 蔵前駅周辺では、乗り換え利便性を向上するための検討や問屋が集積するまちの個性を活かした景観形成、賑わいの誘導等により、楽しく歩ける空間づくりを推進する。

- 新御徒町駅周辺では、歩行者の安全性・快適性を確保し、誰もが移動しやすい空間を整備するとともに、生活利便施設等の誘導を図る。

②地域全体における賑わいの創出

- 問屋街、おかず横丁等と周辺地域との回遊性向上や景観の調和、街並みや賑わいの連続性確保を図る。
- 地域産業や地域のコミュニティなどを活かし、地域全体における新たな賑わいの創出を図る。

(4) 地域の防災性向上

①建物の耐震化・不燃化の促進

- 地域全体の防災性向上を図るため、建物の更新等により、不燃化・耐震化の促進、狭あい道路の拡幅、オープンスペースの確保等を推進する。
- 中小規模の事務所ビルは、防災性向上とあわせ、建物の性能向上を図りながら、安全性を強化する。

②水害対策

- 集中的な大量の降雨などによる荒川や神田川の氾濫や高潮等の水害対策を検討する。

(5) 歴史・文化・みどりを感じる風情ある街並みの創出

①歴史・文化やみどりを感じる街並みの創出

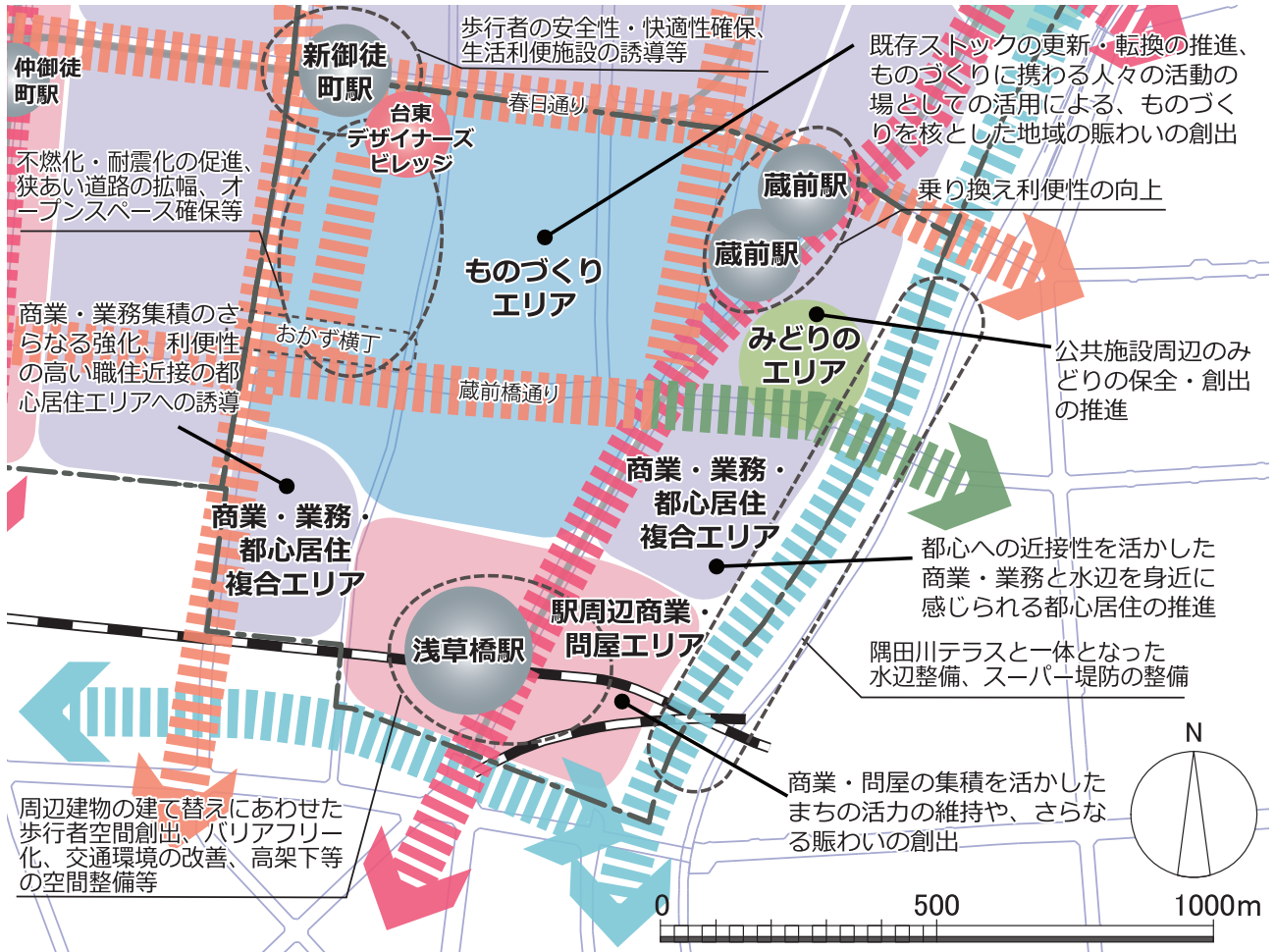
- 地域性を反映した祭事等の情緒ある地域資源や、歴史・伝統のある文化資源を活かした景観形成に努め、風情を感じる街並み形成を推進する。
- 開発にあたっては、空地の創出や緑化等により、みどりあふれる環境を創出する。

②水とみどりを活用した水辺空間の形成

- 隅田川周辺では、水辺と調和した街並みによる景観形成を推進するとともに、隅田川テラスと一体となった水辺整備を進める。
- 神田川では、舟運の活用等を推進するとともに、周辺では歴史と潤いを感じる景観形成を進める。
- まちづくりの進捗や建物の更新にあわせてスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の強化を図る。

6 南部地域

■南部地域まちづくり方針図



【エリア】	【みち】
駅周辺商業・問屋エリア	観光・賑わいのみち
ものづくりエリア	生活・賑わいのみち
商業・業務・都心居住複合エリア	みどりのみち
みどりのエリア	水・みどりのみち
	【一般】
	JR在来線
	その他鉄道
	都市計画道路
	地域境界
【駅と施設等】	
鉄道駅	
主な公共施設	